

清瀬市の わかりやすい決算書

～清瀬市のまちづくり報告書～



平成25年度決算

目 次

◇ 決算とは？	1
◇ 歳入の状況	2
◇ 歳出の状況	3
◇ 歳出【目的別】	4
◇ 歳出【性質別】	5
◇ 平成 25 年度の主要事業	6
◇ 決算の特徴	12
◇ 積立金現在高の状況	13
◇ 財政指標	14
◇ 借金と将来負担	16
◇ 人件費削減の取組	19
◇ 財務書類	20

表紙の写真

- ・市の木：けやき（木の姿が美しく、清瀬市の土壤に適している）
- ・市の花：サザンカ（庭木等として市民に親しまれており、秋の終わりから冬にかけて花を咲かせる）
- ・市の鳥：オナガ（群れをなして市内の雑木林を飛んでいる姿が自然に調和して美しく、市民に親しまれている）

決算とは？

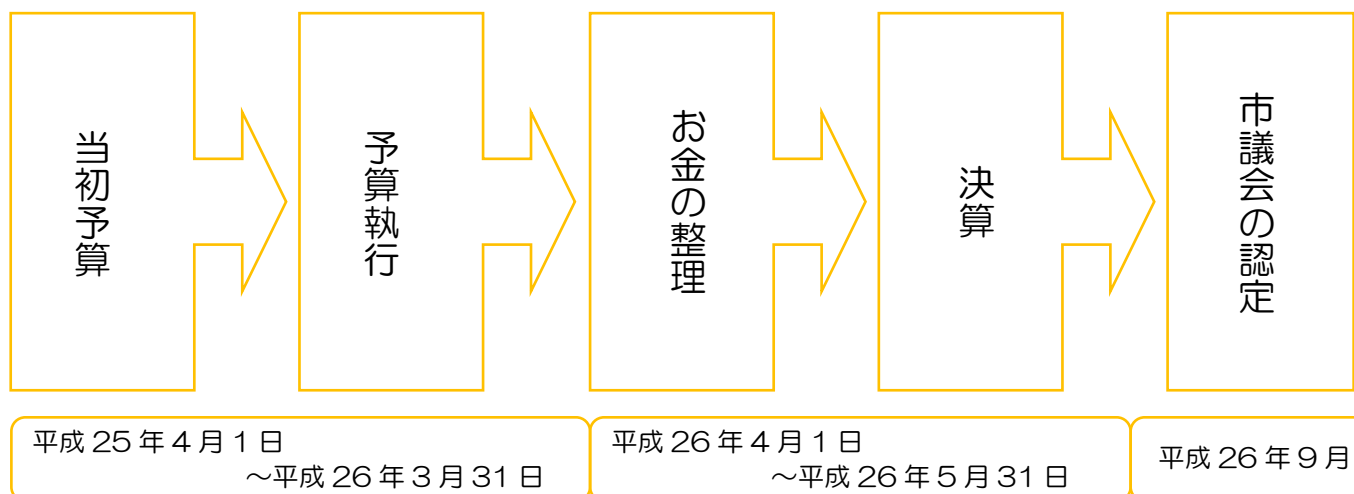


そもそも決算とは何でしょうか？



新しい年度が始まる前に、1 年間（4 月から翌年 3 月まで）にどのくらいの収入があるか、その収入をもとにして、どのような行政サービスを行うのかを計画し、その支出を見積ったものが予算です。それに対して決算とは、1 年間にどれだけの収入があつて、その収入をどんな使い道でどれだけ支出したのか示したものです。また、市役所では一般企業や家庭で言う「収入」、「支出」のことをそれぞれ「歳入」、「歳出」と言います。

◆決算までの流れ（平成 25 年度決算認定までの流れ）



清瀬市の決算は黒字？赤字？



会社の決算においては黒字か赤字かで業績を判断していますが、市役所はどのようなのでしょうか？



市役所において黒字または赤字は、「**実質収支**」というものから判断します。

「実質収支」＝歳入総額－歳出総額－次の年に使うことが決められている金額

実質収支がプラスなら黒字、マイナスなら赤字となります。

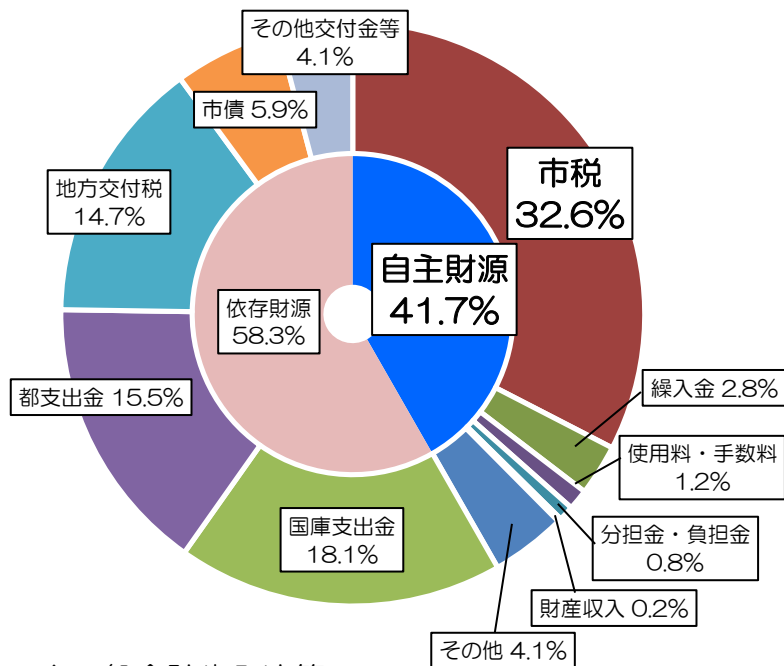
清瀬市の平成 25 年度決算においては、歳入は 279 億 6,414 万円に対して、歳出は 271 億 9,554 万円でした。平成 25 年度は次の年（平成 26 年度）に使うことが決められている金額がないため、差引 7 億 6,860 万円が実質収支となります。実質収支がプラスであることから、清瀬市の平成 25 年度決算は 7 億 6,860 万円の黒字ということになります。

歳入の状況



清瀬市が毎年使うお金はどのように
賄っているのでしょうか？

【歳入の構成比】



市役所の歳入は市税や使用料などの市が自主的に徴収できるお金である「**自主財源**」と国や都から交付されたりするお金や金融機関からの借入れをする市債などの「**依存財源**」に分類することができます。清瀬市は自主財源よりも依存財源の方が多い市です。特に、市税が歳入額に占める割合は32.6%で多摩26市平均の48.1%を下回っており、市税収入が少ない市です。自主財源の比率が高ければ、自由に使えるお金が多く、財政運営上望ましいとされています。自主財源の強化が清瀬市の大きな課題です。

◆一般会計歳入決算

項 目	説 明	金 額	前年度比 (増減額)
自主財源	市が自主的に決定し、徴収できる財源	116 億 6,894 万円	2,135 万円
市税	市民の皆さんから納めていただく税金	91 億 922 万円	1 億 4,370 万円
分担金・負担金	事業にかかる経費の一部を受益の程度に応じて利用者にご負担いただくお金	2 億 3,398 万円	727 万円
使用料・手数料	市営住宅使用料やごみ処理手数料など	3 億 1,862 万円	▲397 万円
繰入金	市の基金（貯金）からの取崩しなど	7 億 9,037 万円	1 億 6,521 万円
財産収入	市有の土地などの売却収入	5,247 万円	▲2,639 万円
その他	寄附金や前年度からの繰越金など	11 億 6,428 万円	▲2 億 6,447 万円
依存財源	国や都の意思によって定められ、交付される財源	162 億 9,520 万円	3 億 7,392 万円
国・都支出金	市の行政サービスを行うために、国や都から交付されるお金	93 億 7,223 万円	5 億 3,289 万円
地方交付税	国から財政力不足の自治体へ交付されるお金	41 億 836 万円	▲4,126 万円
市債	国や金融機関からの借入金	16 億 6,000 万円	▲2 億 100 万円
その他交付金等	国や都が集めた税金を各自治体へ再配分する譲与税や地方消費税交付金など	11 億 5,461 万円	8,329 万円
合 計		279 億 6,414 万円	3 億 9,527 万円

歳出の状況



清瀬市は平成 25 年度に何のために、どのようにお金を使ったのでしょうか？



清瀬市の平成 25 年度のお金の使い道を知るためには、2 種類の確認方法があります。

●目的別経費：何のために使ったか。

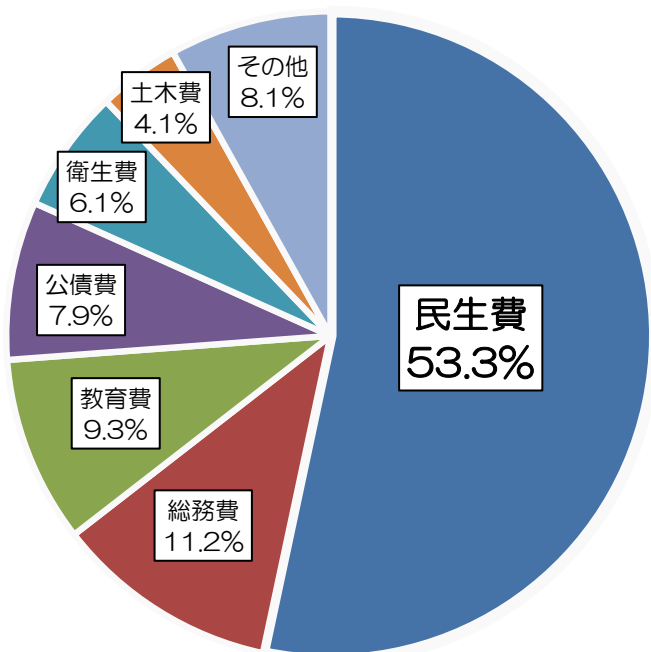
例えば・・・子育て支援のために【民生費】、けやき通りの整備のため【土木費】

●性質別経費：どういう用途にお金を使ったか。

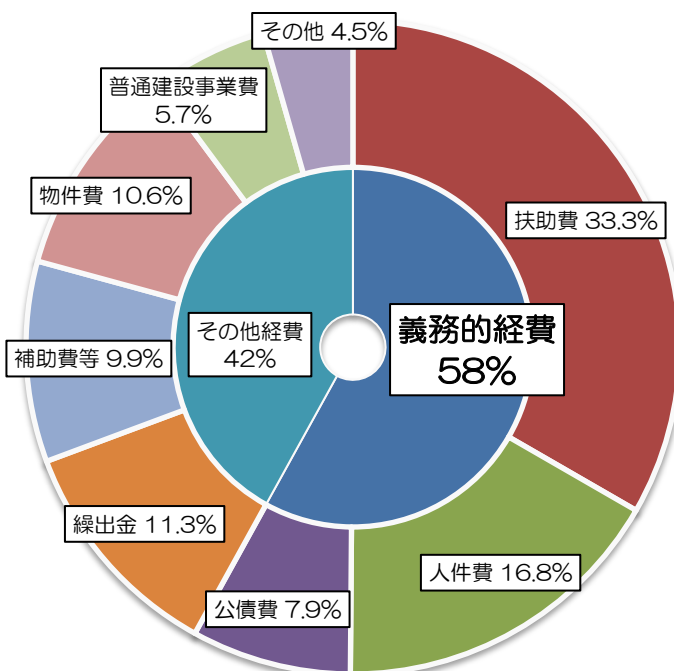
例えば・・・児童手当の給付に【扶助費】、けやき通りの枝の剪定作業に【物件費】

清瀬市の歳出は、目的別経費では、高齢化などにより民生費が全体の 53.3%と決算額の半分以上を占めているのが特徴となっています。性質別経費では、毎年必ず支出しなければならない義務的経費（人件費、扶助費、公債費）が約 6 割を占めています。義務的経費は、公債費（借金の返済）や人件費は昔より減少しているものの、生活保護費や自立支援給付費などの扶助費が増加したことで、歳出全体に占める割合が大きくなっています。

【目的別歳出の構成比】



【性質別歳出の構成比】



4 ページと 5 ページで目的別経費、性質別経費がどのようなものか、またそれぞれいくら使ったのかみてみましょう。

歳出【目的別】

◆一般会計決算（目的別経費）

項 目	説 明	金 額	前年度比 (増減額)
議 会 費	議員の報酬や議会運営などにかかる経費	2 億 4,666 万円	▲292 万円
総 務 費	庁舎などの管理、市税の賦課徴収、戸籍事務など市役所の全般的な仕事にかかる経費 ★学童クラブと老人いこいの家の耐震化等改修工事を行いました。	30 億 3,455 万円	▲1,458 万円
民 生 費	障害者福祉や生活保護などの社会保障、また児童手当などにかかる経費 ★私立保育園の整備費補助や市立保育園の定員調整を行い、市内保育園の定員合計が 136 名増加しました。	145 億 663 万円	7 億 505 万円
衛 生 費	予防接種やがん検診などの健康推進、母子保健、また公害防止やごみ収集などにかかる経費 ★中学生以下の第3子以降の子どもに対してのインフルエンザ任意予防接種費の助成を開始しました。	16 億 6,715 万円	▲3,537 万円
労 働 費	労働者環境の向上や就労支援などにかかる経費 ★清瀬駅北口のクレアビル 4 階で「ふるさとハローワーク」を開設し求人情報を発信しています。	396 万円	▲5 万円
農 林 業 費	農林業の振興にかかる経費 ★清瀬市の農業者を応援するために、パイプハウスの張り替えや農機具の購入に対する助成事業を開始しました。	5,045 万円	▲1,737 万円
商 工 費	商工業の振興にかかる経費 ★「きよせニッポンスタンプ」事業を開始し、商店街の振興を図りました。	7,114 万円	▲568 万円
土 木 費	道路や公園、市営住宅の管理などにかかる経費 ★4 路線の道路・歩道の用地を取得し、道路整備、歩道拡幅整備工事を行いました。	11 億 956 万円	▲1 億 727 万円
消 防 費	火災、地震等の災害から市民を守るための経費 ★災害時の情報伝達手段としての MCA 無線を購入しました。	9 億 8,700 万円	▲9,558 万円
教 育 費	小中学校の運営費や、図書館や博物館などの生涯学習、文化振興などにかかる経費 ★第五中学校校舎、第八小学校トイレの大規模改造工事を行いました。	25 億 3,256 万円	▲1 億 5,003 万円
公 債 費	事業を行うために国や金融機関から借りた市債（借金）の返済金	21 億 4,999 万円	▲261 万円
諸 支 出 金	他の項目に含まれない経費をまとめたもの	8 億 3,589 万円	3 億 1,204 万円
予 備 費	緊急に支出を必要とする場合に備えて用意しているお金	0 万円	0 万円
合 計		271 億 9,554 万円	5 億 8,563 万円

★マークは平成 25 年度に行った主な事業や近年の特徴を説明しています。

歳出【性質別】

◆一般会計決算（性質別経費）

項 目		説 明	金 額	前年度比 (増減額)
義務的経費	人 件 費	市職員の給料や市議会議員の報酬・社会保険料などにかかる経費 ★職員数・人件費の推移については 19 ページで詳しく説明しています。	45 億 6,930 万円	567 万円
	うち 職員給与等	人件費のうち市職員にかかる経費	26 億 8,022 万円	331 万円
	扶 助 費	福祉などの生活支援及び児童手当などの給付にかかる経費 ★生活保護費、自立支援給付費等の社会保障費が毎年大きく増加しています。	90 億 6,189 万円	3 億 6,943 万円
	公 債 費	事業を行うために国や金融機関から借りた市債（借金）の返済金	21 億 4,999 万円	▲261 万円
	小 計	毎年必ず支出しなければならない経費	157 億 8,118 万円	3 億 7,249 万円
その他経費	物 件 費	物品の購入、光熱水費、委託料などにかかる消費的経費 ★定期予防接種の項目の増加により、定期予防接種委託経費が増加しています。	28 億 8,756 万円	682 万円
	維持補修費	施設の維持管理にかかる経費 ★小中学校の維持管理、公園の遊具の修理を行いました。	3,000 万円	158 万円
	補 助 費 等	各種団体への補助金や一部事務組合の負担金などにかかる経費 ★東京国体の開催による国体実行委員会への補助金や特定緊急輸送道路沿道に建つ建物の耐震化のため補助金を支払いました。	26 億 9,689 万円	▲2,207 万円
	普通建設事業費	道路や公園、小中学校校舎など、社会資本の形成にかかる経費 ★市内各所の道路整備や第五中学校校舎、第八小学校トイレの大規模改造工事を行いました。	15 億 5,588 万円	1 億 5,464 万円
	災害復旧費	大雨、暴風、地震などの災害により被災した施設等を復旧するための経費	145 万円	▲34 万円
	積 立 金	各種基金（貯金）への積立金 ★財政調整基金に 8 億 3,600 万円を積立てました。13 ページで詳しく説明しています。	11 億 5,814 万円	8,835 万円
	貸 付 金	奨学資金の貸付など、市が一時的に貸し出す経費	1,262 万円	92 万円
	繰 出 金	特別会計の収入を補うための経費 ★高齢化に伴う医療費の伸びなどにより、国民健康保険事業特別会計、介護保険特別会計などへ一般会計からお金を補填しています。	30 億 7,182 万円	▲1,676 万円
合 計			271 億 9,554 万円	5 億 8,563 万円

★マークは平成 25 年度に行った主な事業や近年の特徴を説明しています。

平成 25 年度の主要事業

① 安全で安心な潤いあるまち

学童クラブ・老人いこいの家耐震化	
新庁舎建設室 ☎042-497-1805	
工事完了日 H26.3.18	事業費 6,500万円
	実施設計・監理委託料 697万円
	耐震改修工事費 5,803万円
	財源内訳
	都費 3,656万円 公共用財産の取得及び建設基金 2,323万円 一般財源 521万円
決算説明書掲載ページ	
【歳入】45、47、57ページ 【歳出】95ページ	
平成24年度に実施した公共施設の耐震診断の結果、耐震性能が低いと診断された学童クラブ（5施設）と老人いこいの家（5施設）の耐震化等改修工事を実施しました。	

雨水幹線の整備工事（下水道事業特別会計）	
下水道課 ☎042-497-2532	
整備工事期間 H25.5.15～H26.3.31	事業費 1億6,960万円
	整備工事 1億6,960万円
	財源内訳
	国費 3,700万円 都費 185万円 市債 13,040万円 一般財源 35万円
	決算説明書（特別会計）掲載ページ
【歳入】113、115ページ【歳出】123ページ	
豪雨による浸水を解消するため、雨水幹線の整備を平成25年度より計画的に行っています。平成25年、26年は台田団地中央部の柳瀬川を起点に、台田の杜東側に位置する道路に沿って柳瀬川通りとの交差点まで約380メートルの区間に、直径2.4メートルの雨水管を地下約13メートルに埋設します。	

市道0222号線歩道を拡幅	
まちづくり課 ☎042-497-2093	
工事完了日 H26.3.10	事業費 1億1,855万円
	用地購入費 9,314万円
	拡幅工事費 1,843万円
	その他諸経費 698万円
	財源内訳
	国費 5,290千円 都費 5,786万円 一般財源 779万円
決算説明書掲載ページ	
【歳入】39、51ページ 【歳出】227、229ページ	
清瀬駅北口から新小金井街道に向かう市道0222号線は、バス路線でもあり、交通量が多いことから、歩行者等の安全を図るために、約130メートルの区間（清瀬駅北口第2駐輪場西側）に、2.5メートル幅の歩道を整備しました。	

五中校舎・八小トイレの大規模改造工事		
教育総務課 ☎042-497-2538		
工事完了日 五中：H25.10.31 八小：H25.10.23	事業費 3億7,047万円	
	第五中学校校舎大規模改造工事	3億423万円
	第八小学校トイレ大規模改造工事	6,624千円
	財源内訳	
	国費	1億361万円
	地方債	2億6,000万円
	一般財源	686万円
決算説明書掲載ページ		
【歳入】41、67ページ 【歳出】275、287ページ		
市内の老朽化した小中学校の大規模改造工事を順次行っており、平成25年度は第五中学校校舎の外壁の補修、内装の塗り替え、太陽光発電設備の設置等の改修と第八小学校トイレの床のドライ化・便器の洋式化等の改修を行いました。 ※ドライ化…清掃後の床が濡れた不衛生な状態を解消するために、乾きやすい床にすること。		

マンホールトイレの設置		
教育総務課 ☎042-497-2538		
工事完了日 実施全3校：H26.3.24	事業費 509万円	
	設置工事	509万円
	財源内訳	
	一般財源	509万円
	決算説明書掲載ページ	
	【歳出】263、277ページ	
災害時に避難所となる小中学校のうち、第八小学校・清明小学校・第三中学校の3校にマンホールトイレを各5基設置しました。		

② 『人間性』を尊重し人をはぐくむまち

せせらぎ保育園・上宮保育園の施設整備を補助		
子育て支援課 ☎042-497-2086		
工事完了日 せせらぎ保育園：H26.1.31、上宮保育園：H27.2.28予定	事業費 2億9,659万円	
	せせらぎ保育園施設整備費補助	2億55万円
	上宮保育園施設整備費補助	9,604万円
	財源内訳	
	都費	2億5,998万円
	一般財源	3,661万円
決算説明書掲載ページ		
【歳入】47ページ 【歳出】169ページ		
待機児童解消のため、私立保育園2園に対して施設整備費を補助しました。新設のせせらぎ保育園は定員120名で平成26年4月より開園しました。上宮保育園については平成25年、26年の2カ年にわたり改修工事を実施しており、平成27年4月より定員94名から121名と27名増となります。		

第 1 保育園の 0 歳児受入れを準備		
子育て支援課 ☎042-497-2086		
準備完了日 H26.3.31	事業費 577万円	
 第1保育園0歳児室の様子	施設整備等準備経費	577万円
	財源内訳	
	都費	148万円
	一般財源	429万円
決算説明書掲載ページ		
【歳入】49ページ 【歳出】165、167ページ		
市立第 1 保育園に待機児童の多い 0 歳児クラス（定員 6 名）を新設するため、乳児室や調乳室などを整備しました。0 歳児クラスは平成 26 年 4 月から開設しています。		

赤ちゃんのチカラプロジェクトを実施		
指導課 ☎042-497-2554		
実施日 通年	事業費 98万円	
 赤ちゃんのチカラプロジェクトの様子	指導等委託料	98万円
	財源内訳	
	都費	47万円
	一般財源	51万円
決算説明書掲載ページ		
【歳入】45ページ 【歳出】259ページ		
市内各小・中学校で児童・生徒が、赤ちゃんを抱き上げ、その笑顔や泣き顔などに直接触れることで、命の大切さを心と体で実感できる「赤ちゃんのチカラプロジェクト」を実施しました。		

特別支援学級に ICT 機器を導入		
指導課 ☎042-497-2554		
実施日 通年	事業費 673万円	
 タブレット端末を活用した授業の様子	ICT 機器等借上料	402万円
	協力員等謝礼	231万円
	その他諸経費	40万円
	財源内訳	
国費		673万円
決算説明書掲載ページ		
【歳入】43ページ 【歳出】261ページ		
特別支援学級の子ども達が通常の学級の子ども達をはじめ様々な人と合理的配慮を受けながら交流し、社会の一員として心豊かに生きていけるようになることを目指す「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」を文部科学省の指定を受けて実施しました。タブレット端末などを活用し、様々な人と交流して学び合っていく授業を行っています。		

博物館特別展（太田隆司展）を開催		
郷土博物館 ☎042-493-8585		
開催期間 H26.3.8～3.30	事業費 277万円	
 展示作品「君暮らす街Ⅳ」	会場設営等委託料	230万円
	その他諸経費	47万円
	財源内訳	
	都費	200万円
	一般財源	77万円
決算説明書掲載ページ		
【歳入】45ページ 【歳出】303ページ		
清瀬市出身のペーパーアーティスト太田隆司氏の作品展を開催しました。開催期間中にはギャラリートークやペーパークラフト体験教室も実施されました。		

③ 活気あふれる交流の広がるまち

スポーツ祭東京2013（東京国体）の開催		
生涯学習スポーツ課 ☎042-495-7001		
開催期間 H25.9.30～10.3	事業費 3,250万円	
 9/30開催試合（徳島県×鹿児島県）	国体運営委員会運営費補助	2,898万円
	その他諸経費	352万円
	財源内訳	
	都費	1,740万円
	その他	199万円
	一般財源	1,311万円
決算説明書掲載ページ		
【歳入】51、53、63ページ 【歳出】309ページ		
スポーツ祭東京2013で清瀬市においては、下宿第三運動公園サッカー場を会場に女子サッカー競技を実施しました。大会の運営は国体実行委員会をはじめ、市民ボランティアの協力を得て行われました。出場する各県の応援団など多くの方が来場され、大盛況のうちに閉幕しました。		

地域農業者を支援		
産業振興課 ☎042-497-2052		
実施期間	事業費 404万円	
 清瀬市の農家の方	地域農業者支援事業補助金	404万円
	財源内訳	
	一般財源	404万円
	決算説明書掲載ページ	
	【歳出】215ページ	

清瀬市の農業は、市内最大の産業であり、約280人の農業者の方々が都市農業を営んでいます。都市農業の振興のため、意欲的な農業者に対して、パイプハウスの張り替えや農機具などの購入費用の一部を補助しました。

きよせニンニクスタンプ事業を実施		
産業振興課 ☎042-497-2052		
実施期間	事業費 389万円	
 抽選会の様子	スタンプ事業補助金	389万円
	財源内訳	
	一般財源	389万円
	決算説明書掲載ページ	
	【歳出】217ページ	
清瀬商工会と連携し、「きよせニンニクスタンプ事業」を新規事業として実施しました。市内の参加事業者の店舗で買い物をした際、専用のスタンプカードに500円につき1つのスタンプを押印し、20個たまると、市内で利用できる総額400万円の商品券が当たる抽選会に応募することができます。全3回の抽選会を開催し25,927件の応募があり、商店街の活性化につながりました。		

清瀬ひまわりフェスティバルを開催		
産業振興課 ☎042-497-2052		
開催期間 H25.8.17～9.1	事業費 260万円	
 ひまわりフェスティバル	ひまわり推進助成	260万円
	財源内訳	
	寄附金	50万円
	一般財源	210万円
決算説明書掲載ページ		
【歳入】57ページ 【歳出】217ページ		
平成20年度から実施しているひまわりフェスティバルは、約2万4千平方メートルの広大な農地に約10万本のひまわりが大きな花を咲かせます。平成25年度は6万人を超える来場者が訪れました。		

④ 豊かな自然環境と住環境が調和するまち

オオムラサキ育成用ケージを設置		
水と緑の環境課 ☎042-497-2098		
工事完了日 H26.3.31	事業費 786万円	
 観察会の様子（台田の杜）	設置工事	786万円
	財源内訳	
	都費	374万円
	緑地保全基金	300万円
一般財源 112万円		
決算説明書掲載ページ		
【歳入】49、57ページ 【歳出】239ページ		
国蝶であるオオムラサキが飛び交う雑木林の実現のために、平成24年度からオオムラサキの羽化事業を行っています。平成25年度はオオムラサキが羽化しやすい環境を作るため、新たに台田の杜に飼育ケージを設置しました。飼育ケージの中では100頭を超える幼虫が羽化し、オオムラサキの観察会を開催しました。		

「環境フェア」と「きよせ川まつり」を合わせて開催		
水と緑の環境課 ☎042-497-2099		
開催期間 H25.7.27	事業費 161万円	
	会場設営委託料等	161万円
	財源内訳	
	諸収入	150万円
	一般財源	11万円
決算説明書掲載ページ		
【歳入】 65ページ 【歳出】 205ページ		
きよせの環境・川まつりの様子 これまで別々の日程で行っていた「環境フェア」と「きよせ川まつり」を柳瀬川河川区域及び台田運動公園で合わせて開催しました。約6,500人の方が来場し、清瀬の豊かな自然にふれるとともに、新しい環境技術の紹介なども行われ、環境保全の普及啓発を図りました。		

学校施設の緑化を推進		
教育総務課 ☎042-497-2538		
工事完了日 八小・四中：H25.9.30	事業費 1億1,310万円	
	第八小学校芝生化工事	4,700万円
	第四中学校芝生化工事	5,466万円
	その他諸経費	1,144万円
	財源内訳	
都費		1億909万円
一般財源		401万円
決算説明書掲載ページ		
【歳入】 51ページ 【歳出】 261ページ		
第四中学校校庭の芝生 ヒートアイランド現象の軽減や子ども達の運動能力の向上を目的に、平成25年度は第八小学校と第四中学校の運動場の芝生化工事を行いました。また、大規模改造工事を行った第五中学校を除く各小中学校で緑のカーテンを行いました。		

太陽光発電システム等設置を補助		
水と緑の環境課 ☎042-497-2099		
実施期間	通年	事業費 718万円
		設置費用助成 718万円
		財源内訳
		一般財源 718万円
		決算説明書掲載ページ
		【歳出】 205ページ
太陽光発電システム		

自然環境保全のため、CO2の排出抑制に効果的な太陽光発電機器や家庭用燃料電池（エネファーム）の設置を助成しました。太陽光発電機器については、平成25年度からより多くの世帯に設置をしていただくために、助成方法を発電出力1キロワット当たり3万円（上限10万円）とする内容に改め、81件の設置に対して助成しました。

決算の特徴

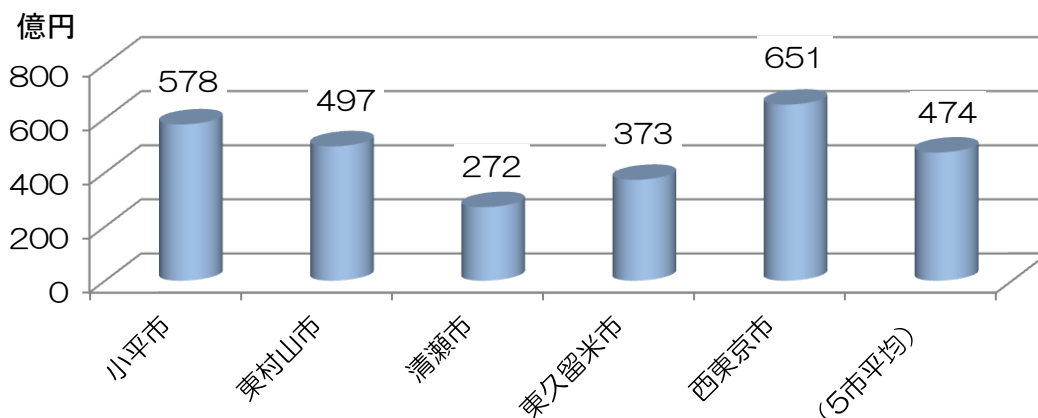


清瀬市の決算額は他の市と比べてどれくらいの規模なのでしょうか？



1～5 ページで見たとおり、清瀬市の平成 25 年度歳出決算額は 271 億 9,554 万円でした。この決算額は、市民の皆さんにとっては大きすぎる金額のため、イメージしづらいかもしれません。そこで、271 億 9,554 万円という決算額が、市としてどれほどの規模なのか、近隣 5 市と比べてみましょう。

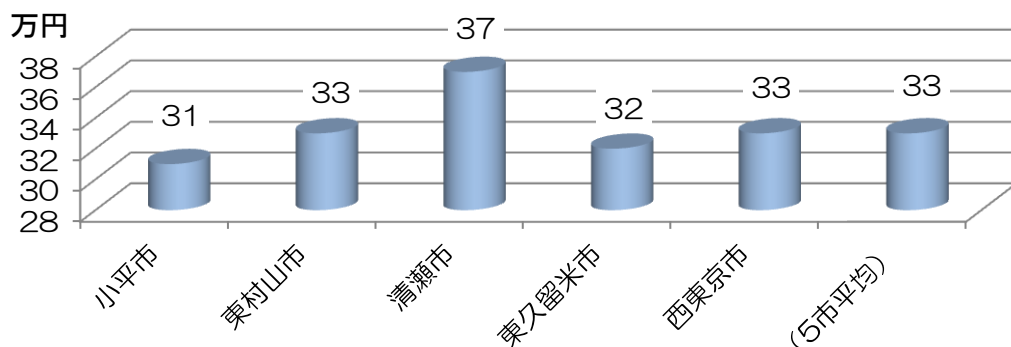
【近隣 5 市との比較：決算額（歳出）】



決算額（歳出）を比較すると、清瀬市の財政規模は近隣 5 市で最も低い水準です。これは、他の市に比べて人口が少ないことと面積が小さいためです。

では、清瀬市で行っている行政サービスの水準は、近隣市と比べて低いのでしょうか？

【近隣 5 市との比較：市民 1 人あたり決算額】



決算額（歳出）をそれぞれの人口で割ると、「市民 1 人あたりに平均してどれだけ行政サービスを行ったか」が分かります。

平成 25 年度については、清瀬市は市民 1 人あたり 37 万円の行政サービスを提供しており、近隣市のなかでも高い水準です。

積立金現在高の状況

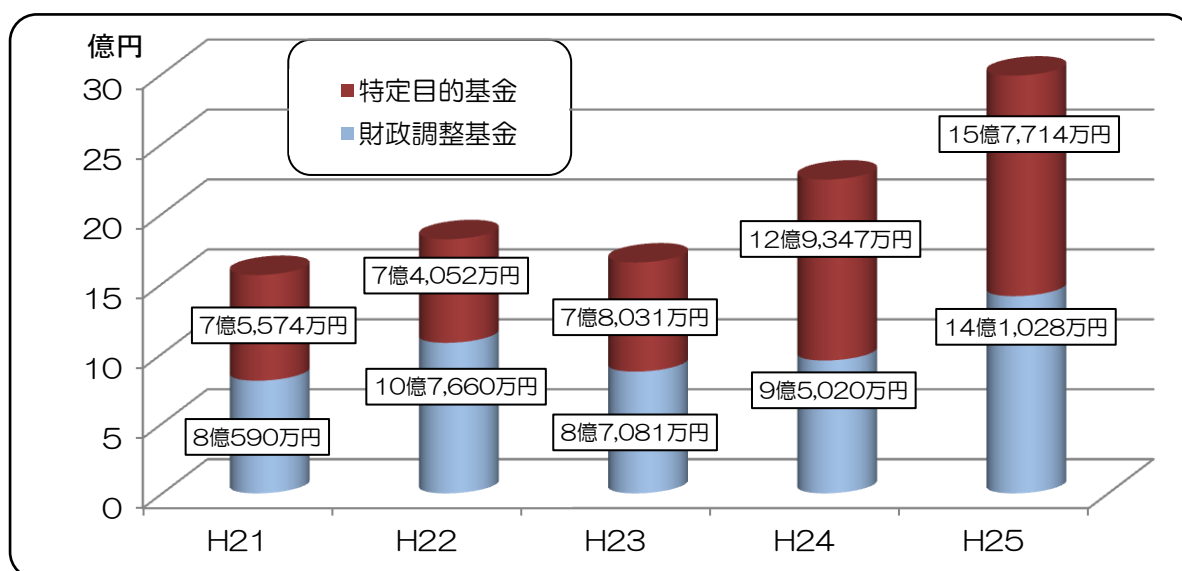


毎年たくさんのお金を使って道路や学校の整備、様々な行政サービスを提供していますが清瀬市には貯金はあるのでしょうか？



市役所では、一般家庭での貯金にあたる「基金」を持っています。
基金には、決算が黒字だったときに残ったお金を積み立てておき、お金が足りなくなったときに取り崩して使うための「**財政調整基金**」と、今後行う事業に使うために計画的に積み立てておく「**特定目的基金**」があります。特定目的基金には、庁舎や公共施設の整備のために使うための「公共用財産の取得及び建設基金」や市内の雑木林や公園などの整備に使うための「緑地保全基金」、ふるさと納税で寄附して頂いたお金を一時的に積み立てておく「まちづくり応援基金」などがあります。

【基金残高の推移】



上のグラフのうち、各年度の下側が財政調整基金です。残高の推移をみると、平成 23 年度に 8 億円台にまで減ったものの、行財政改革の推進により捻出された財源などを積み立てたことにより、平成 25 年度は 14 億円台に回復しました。

また、特定目的基金については、市役所庁舎の建替えや市内公共施設の耐震化、小中学校の校舎の大規模改修などに備えるため、公共用財産の取得及び建設基金に平成 25 年度は約 3 億 1,900 万円を積み立てたことから、15 億円を超える額となりました。

今後は、前述の通り公共施設の整備のほか、さらには年々膨らむ社会保障関係経費などの経常経費（市が任意に削減できない義務的経費（人件費・扶助費・公債費）などの毎年決まって支出されるお金）の増加が見込まれています。このようなことから、財政調整基金及び特定目的基金への積み立てを計画的に行う必要があります。

財政指標



清瀬市の財政状況は良いのでしょうか？それとも悪いのでしょうか？



清瀬市の財政状況を知るためには、様々な財政指標をみることで把握することが出来ます。そのなかでも財政状況を分析するのによく使われる「**経常収支比率**」と「**財政力指数**」から清瀬市の財政状況をみて行きましょう。

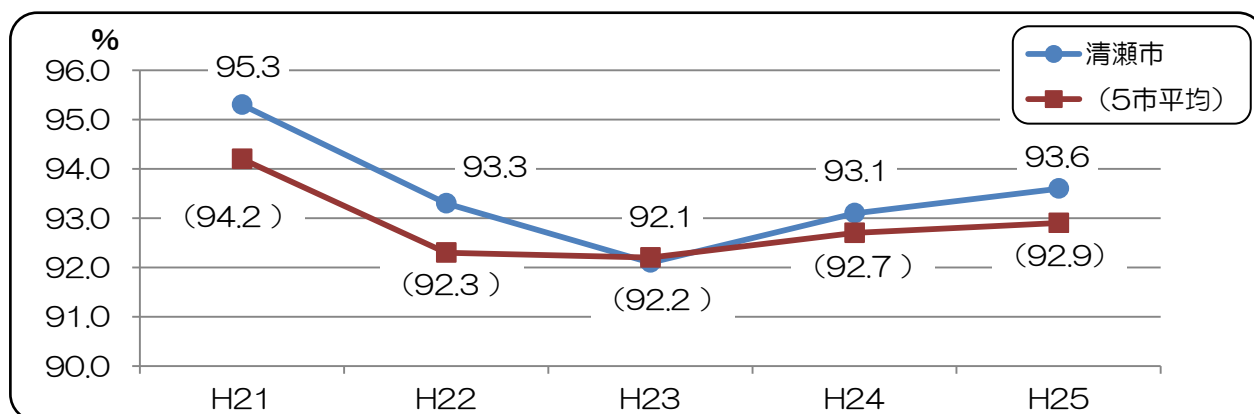
① 経常収支比率

経常収支比率は、市税など毎年決まって収入されるお金が扶助費や公債費など毎年必ず支払わなければならない経費にどれくらい使われているかを示しています。つまり、「自由に使えるお金が、どれだけ使い道を縛られているか」を意味します。一般的には 70～80%が適正水準とされています。

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常経費に使った一般財源}^{\ast}}{\text{毎年収入が見込める一般財源}} \times 100$$

※ { 一般財源：市税や地方交付税など、市の判断でいかなる経費にも使うことができるお金
特定財源：国・都支出金や建設地方債など、特定の経費に使うことが義務付けられているお金

【近隣 5 市との比較：経常収支比率の推移】



清瀬市の経常収支比率は、平成 25 年度決算で 93.6%と前年度よりも悪化し、近隣 5 市平均と比較すると高い水準にあります。

平成 25 年度の 93.6%という経常収支比率を家計に例えると、30 万円の給料のうち、93.6%である 28 万 800 円を食費や家賃などの生活費に使っていることになり、自由に使えるのは残りの 1 万 9,200 円しかありません。

しかしながら、これは限りある収入の中で高い水準の生活を維持している結果でもあります。生活費を削減すれば家計は表面上改善するものの、生活水準は低下しかねません。自治体においても、経常経費の削減は行政サービスの低下につながる可能性がありますので、慎重な判断が求められています。

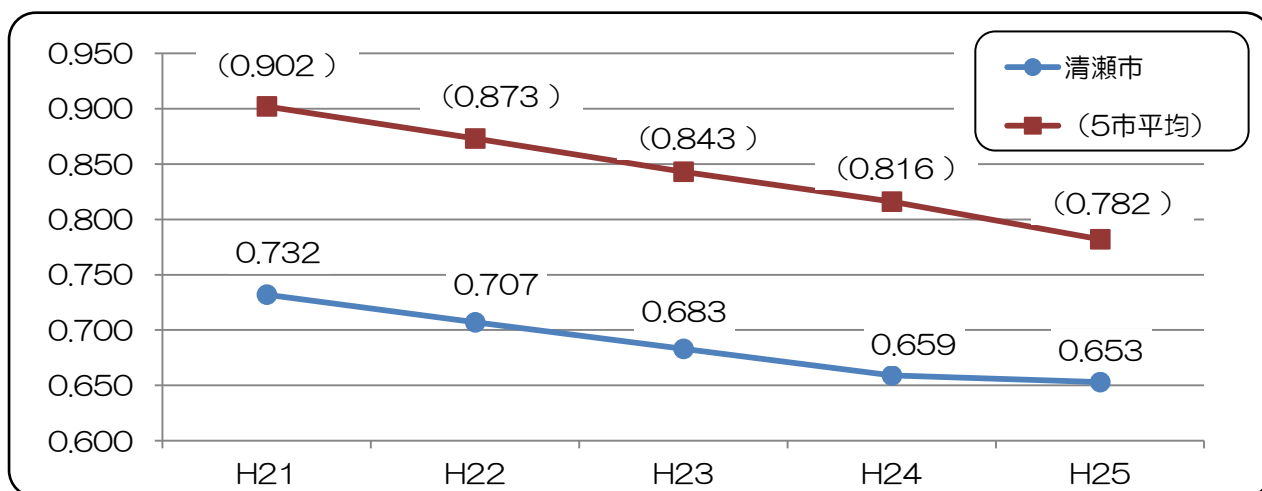
② 財政力指数

清瀬市が行っている行政サービスにかかるお金の一部は、国や都からの補助金で賄っていますが、清瀬市も市税等の一般財源で負担する必要があります。この清瀬市が負担すべき一般財源のうち、どれくらい独自で調達できているのかを示すのが財政力指数です。

$$\text{財政力指数} = \frac{\text{基準財政収入額（市が独自で調達できる一般財源）}}{\text{基準財政需要額（市が負担すべき一般財源）}}$$

市が独自で調達できる一般財源が 70 億円で、市が負担すべき一般財源が 100 億円の場合、財政力指数は 0.7 となります。財政力指数が 1 を割っているため、「財源が不足している団体」とされ、国から地方交付税（普通交付税）が交付されます。財政力指数が 1 を超えると、「財源が豊かな団体」とされ、普通交付税を受け取ることはできません。

【近隣 5 市との比較：財政力指数の推移】



※各年度の数値は、その年度を含む 3 年間の平均値です。

清瀬市の財政力指数は 0.7 前後で、国からの普通交付税により一般財源の不足分を補っています。特に近年は、景気の低迷や高齢化による社会保障関係経費の増加が影響し、普通交付税に頼らざるを得ない傾向が強まっています。

普通交付税額の推移

年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
普通交付税額	29億1,995万円	35億5,806万円	37億9,157万円	39億2,535万円	39億797万円

ここまで経常収支比率、財政力指数をみてきましたが、清瀬市の指標はいずれも近隣 5 市平均よりも改善が必要な数値となっています。これからわかるとおり、決して清瀬市の財政状況は良いとは言えません。今後も、指標の改善を目指して行財政改革の推進など、より一層の努力をしていかなければなりません。

借金と将来負担



学校や道路などの整備にはたくさんのお金がかかりそうですが、市税や国、都からの補助金だけで足りるのでしょうか？

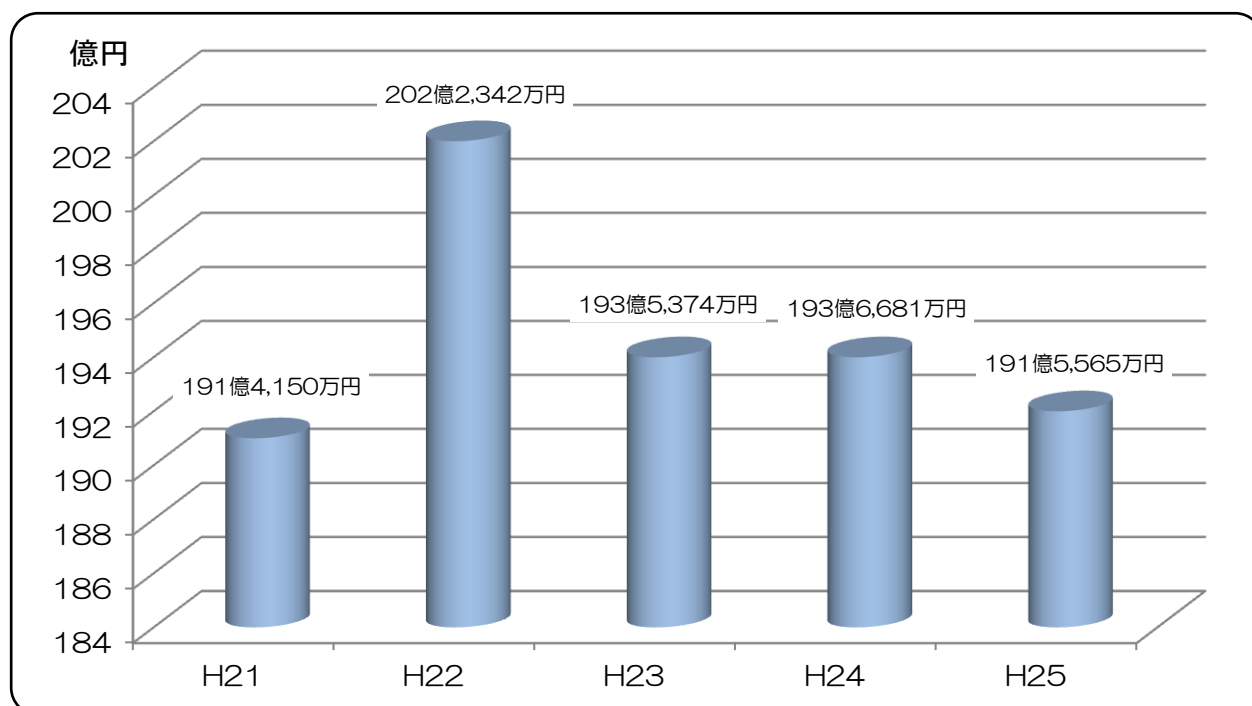


学校や道路などの整備には、たくさんのお金が必要となり、その年の税収だけでこれらの事業を行ってしまうと、他の事業を行うためのお金が不足してしまいます。そのため、借金をしてその年の負担を減らしています。

また、学校や道路は長期間にわたって利用されます。そのため、借金をして整備費を払い、翌年度以降の借金返済に市税を充てることで、将来の世代にも費用の一部を負担していただいています。「借金」には何かと悪いイメージが付きまといますが、市の借金である「地方債」には、年度間・世代間の負担調整という役目もあります。

清瀬市では、平成 25 年度に一般会計で 16 億 6,000 万円の借り入れをして、21 億 4,999 万円の返済をしたことで、借金の残高は 191 億 5,565 万円になりました。

【一般会計の地方債残高の推移】



小中学校の校舎の耐震化や旧都立清瀬東高校の跡地購入、清瀬市民センターの再整備などのため、近年の地方債残高は増加傾向にありましたが、平成 23 年度に旧清瀬第九小学校跡地を 8 億 5,520 万円で売却し、そこで得たお金で 8 億円の返済を行うなど、地方債残高の縮減に努めてきました。

しかし、今後は市役所庁舎の建替えや市内公共施設の耐震化、小中学校の校舎の大規模改修などに多額のお金が必要となり、その一部を借金によって賄うことが予定されているので、地方債の残高にはこれまで以上に気を配る必要があります。

赤字補てんの地方債

原則的に、市は公共施設や社会資本の整備のためにしか借金をすることができないと地方財政法で定められています。しかしながら、特定の条件付きで、不足した一般財源を補うために借金をしてもよいという特例が設けられています。そのなかでも、大きいのが**臨時財政対策債**です。

これは国が普通交付税に必要なお金を確保できなくなったことから、普通交付税の一部を交付せず、代わりに市が借金をすることができるというもので、平成 13 年度から継続して行われています。

これは赤字補てんの地方債であり、社会問題となっている赤字国債と同じ性質のものです。

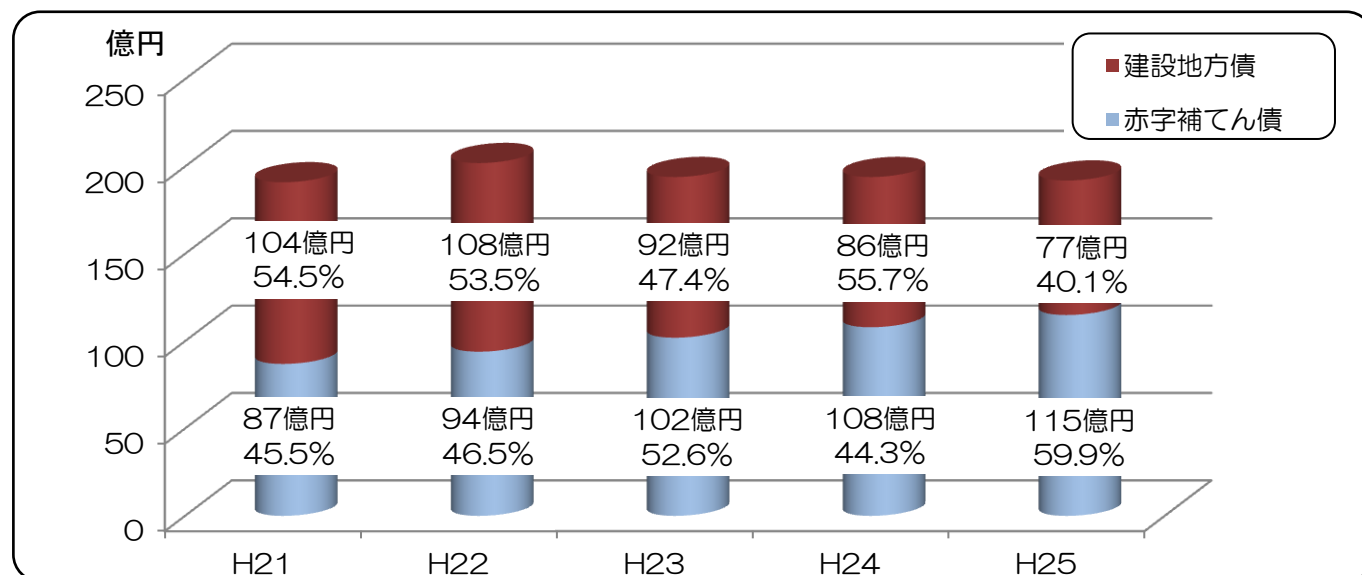
臨時財政対策債の借入額の推移

年 度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
借 入 額	9億9,300万円	13億2,300万円	13億1,300万円	13億3,300万円	14億円

上の表のとおり、臨時財政対策債の借入額は増え続けています。

臨時財政対策債などの赤字補てん債は、社会資本の整備につながらない、その場しのぎの借金です。借り入れは抑制するべきではありますが、財政力指数が 0.7 程度しかない清瀬市では、独自で一般財源を用意することができないため、臨時財政対策債を活用しなければならない状況が続いています。

【建設地方債と赤字補てん債（臨時財政対策債を含む）の残高】



平成 23 年度以降は、特例措置であるはずの赤字補てん債の残高が建設地方債を上回り、今後もこの状況が続くことが予想されます。

臨時財政対策債については、その返済金の全額を翌年度以降の普通交付税で交付されることになっていますが、国の財源不足を地方の借金に転嫁する方法には問題があると清瀬市では考えています。

借金返済の負担率

市で行う借金は、公共施設や社会資本の整備に不可欠ですが、その返済金が大きくなりすぎると、財政運営は困難になります。そこで、**実質公債費比率**という指標を使い、収入に対する借金返済額の割合をチェックします。

【実質公債費比率の算出方法】

分子

【清瀬市が負担している公債費】
(地方交付税に算入されている公債費などは除く)
23年度 7.4億円
24年度 6.7億円
25年度 6.3億円

実質公債費比率の推移

21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
4.9%	5.0%	5.2%	5.3%	5.1%

分母

【清瀬市の収入規模】
(地方交付税に算入されている公債費などは除く)
23年度 132.1億円
24年度 132.0億円
25年度 133.8億円

= 5.1%
(3カ年の率の平均)

注意すべき水準: 25.0%
危険水準: 35.0%

実質公債費比率は、25%を超えると要注意状態と見なされます。この比率は、3か年の平均で求めます。清瀬市は昨年度に比べ0.2ポイント減少の5.1%となっており、基準内に収まっています。

また、**将来負担比率**という指標を使い、将来負担すべき借金返済額の標準的な収入に対する割合をチェックします。

【将来負担比率の算出方法】

分子

【将来の公債費に充てる一般財源】
57.8億円

将来負担比率の推移

21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
77.3%	71.4%	62.1%	53.0%	43.2%

= 43.2%

分母

【清瀬市の収入規模】
(地方交付税に算入されている公債費などは除く)
133.8億円

注意すべき水準: 350.0%

将来負担比率が350%を超えると要注意状態にあると見なされます。清瀬市は43.2%で基準内に収まっています。なお、将来負担比率は、公共用財産の取得及び建設基金の積み立てなど、将来負担の軽減につながる貯金の増加などにより、減少傾向にあります。

人件費削減の取組

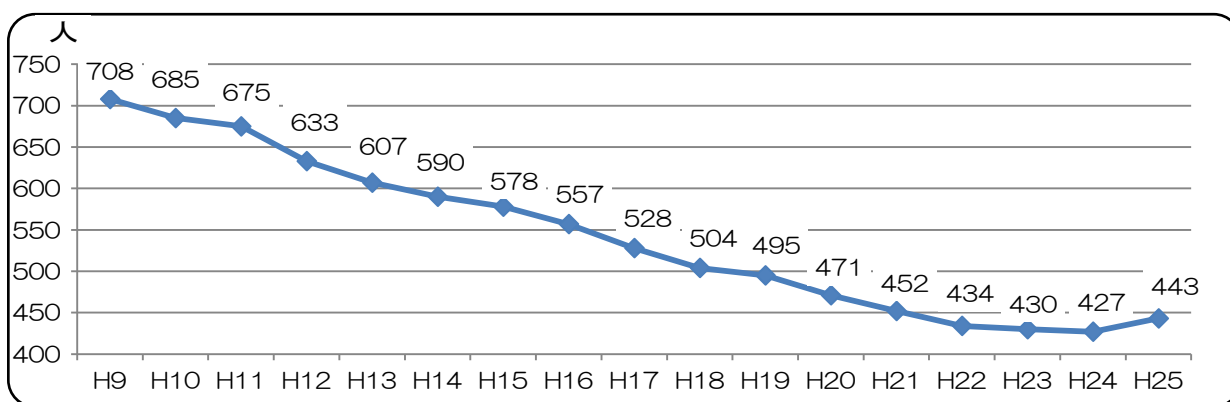


いろいろな財政指標をみると清瀬市の財政状況は厳しいようですが、財政状況を改善していくために取り組んでいることはありますか？



バブル崩壊後の厳しい経済状況により、清瀬市は行財政改革に取り組みました。そのひとつが職員数を減らすことであり、人件費の削減を推進してきました。平成 9 年度には 708 人の正規職員がいましたが、平成 25 年度には 443 人となり、これまでに 265 人の削減を行いました。

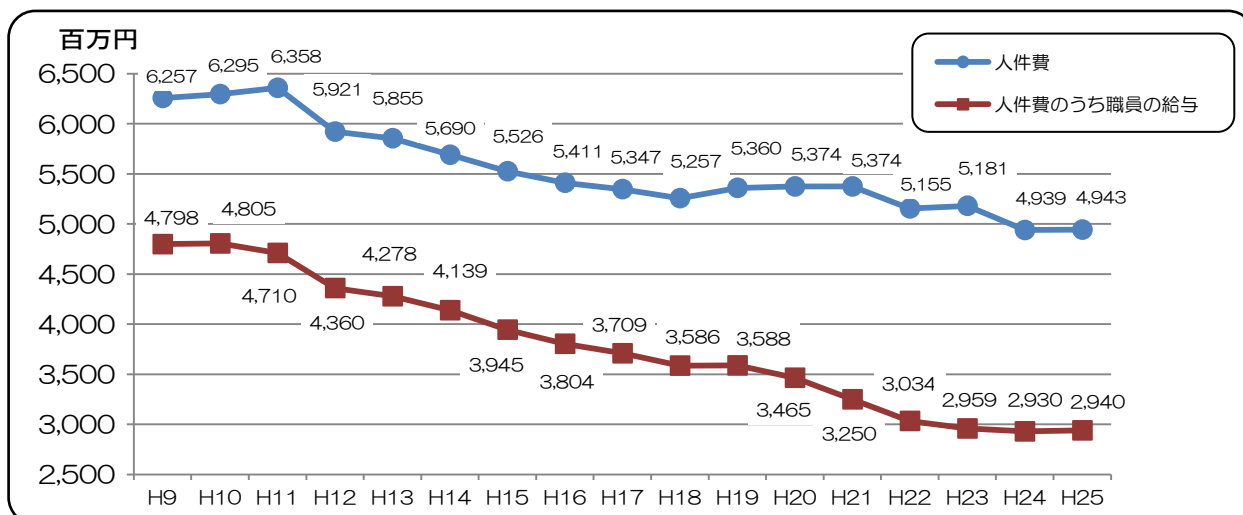
職員数の推移（全会計）



※職員数は各年度 4 月 1 日現在です。

この取組により職員の給与や、議員の報酬、非常勤職員の報酬などの人件費が一番多かった平成 11 年度の 63 億 5,800 万円に対して、平成 25 年度は 49 億 4,300 万円であり、平均して 1 年あたり約 1 億 100 万円の削減幅となっています。職員の給与については、ピークであった平成 10 年度から、平均して 1 年あたり約 1 億 2,000 万円の削減幅となっています。

人件費の推移（全会計）



財務書類

ここまでは、国が実施している決算統計や財政健全化法に基づいた財政状況を分析しました。

これらは「現金主義」というものに基づくもので、お金の実際の出入りが明瞭であるものの、清瀬市が持つ資産や負債などの状況や、行政サービスに要したコストを把握しづらいのが欠点です。

そこで、「現金主義」の欠点を補うため、市の資産と負債を明らかにする「発生主義」の考え方に基づく財務書類 4 表を平成 20 年度から作成しています。

① 貸借対照表（バランスシート）

貸借対照表（バランスシート）は、清瀬市が持つ資産を明らかにするものです。

また、その資産を作るために使ったお金のうち、今までの世代が築いたもの（純資産）と、これからの世代によって負担されるもの（負債）の内訳を明らかにします。

貸借対照表
(平成 26 年 3 月 31 日現在)

(単位：百万円)

借 方			貸 方		
	普通会計	連結		普通会計	連結
1 公共資産	76,790 (△ 257)	92,024 (△ 398)	1 固定負債	22,687 (△ 432)	29,621 (△ 1,077)
2 投資等	3,853 (296)	3,009 (146)	2 流動負債	2,080 (△ 74)	3,171 (△ 78)
3 流動資産	2,377 (261)	4,010 (267)	負債総額	24,767 (△ 506)	32,792 (△ 1,155)
うち歳計現金	769 (△ 190)	1,939 (△ 156)			
資産総額	83,020 (300)	99,043 (15)	純資産総額	58,253 (806)	66,251 (1,170)

下段の（ ）書きは対前年度増減額

※普通会計とは…？

総務省の定める会計区分のひとつで、一般会計、特別会計など各会計で経理する事業の範囲が自治体ごとに異なっているため、統一的な基準で整理して比較できるようにした統計上の会計区分です。

※連結とは…？

普通会計のほか、清瀬市の特別会計や、清瀬市と連携・協力して行政サービスを行っている全ての団体（一部事務組合や第三セクター、21 ページ参照）を一つの団体とみなすことです。連結を行うことで、普通会計が支払った繰出金や負担金、出資金などによって、どのような資産が生まれ、どのような行政サービスを行っているか分かりやすくなります。

【資 産】

清瀬市（連結）の資産総額は 990 億 4,300 万円です。

平成 25 年度は普通会計の実質収支（1 ページ参照）が 7 億 6,860 万円となり、公共用財産の取得及び建設基金への積み立てを約 3 億 1,900 万円行ったことなどから、投資等及び流動資産が 4 億 1,300 万円増加となりました。

また、清瀬第五中学校の校舎大規模改造や私立保育園への施設整備の補助等、有形固定資産の増加要因があり、これまでに取得した建物や道路などの資産価値が減価償却により毎年下がっているなどの理由から、公共資産は 3 億 9,800 万円減少し、資産総額は前年度と比較すると、1,500 万円増加しています。

【負 債】

清瀬市（連結）の負債総額は 327 億 9,200 万円です。

前年度の負債総額と比較すると、普通会計の負債額が 5 億 600 万円、下水道事業特別会計の負債額が約 3 億 9,500 万円、駐車場事業特別会計の負債額が 5,100 万円、一部事務組合（下表参照）等の負債額が約 2 億 300 万円と、それぞれ減少したことなどにより、総額で 11 億 5,500 万円減少しています。

【純資産】

純資産は、上記「資産」の額（990 億 4,300 万円）から「負債」の額（327 億 9,200 万円）を差し引いた額で 662 億 5,100 万円です。「純資産」は、資産を形成するうえで、これまでの世代が負担してきた額となります。

前年度の純資産額と比較すると、平成 25 年度は地方債の発行を抑制し、負債額を減少させている一方で、基金が増加したことなどにより、総額で 11 億 7,000 万円増加しています。

財務書類の活用方法 ～資産老朽化率～

貸借対照表を活用すると、清瀬市の公共資産がどれくらい老朽化しているか知ることができます。

$$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{償却資産取得価額}} \times 100 = \frac{312\text{億}5,900\text{万円}}{633\text{億}2,700\text{万円}} \times 100 = 49.4\%$$

(298億7,700万円) (623億9,000万円) (47.9%)

下段の（ ）書きは前年度数値

100%に近づくほど老朽化が進んでいることを意味し、35%から 50%程度が標準とされていることから、清瀬市（普通会計）における比率は、標準範囲内ですが、比較的高い水準となっています。

◇普通会計以外の連結団体は下記の通りです。

【特別会計】	国民健康保険事業特別会計	下水道事業特別会計	駐車場事業特別会計
	介護保険特別会計	後期高齢者医療特別会計	
【一部事務組合】	柳泉園組合	東京市町村総合事務組合	東京都市町村退職手当組合
	多摩六都科学館組合	昭和病院組合（現：昭和病院企業団）	東京都市町村議会議員公務災害補償等組合
	東京たま広域資源循環組合		
【その他】	後期高齢者医療広域連合	清瀬市土地開発公社	清瀬都市開発株式会社

② 行政コスト計算書

行政コスト計算書は、資産形成に結び付かない経常的な行政サービスにかけられたコストを明らかにするものです。また、その経常的な行政コストが受益者（利用者）負担でどの程度賄われているかを把握することができます。

行政コスト計算書 平成25年4月1日～平成26年3月31日 【経常行政コスト】 (単位：百万円)		
	普通会計	連結
1 人に係るコスト	4,467 (△ 64)	5,459 (△ 50)
2 物に係るコスト	4,300 (26)	6,507 (38)
3 移転支出的なコスト	15,215 (631)	32,775 (1,652)
4 その他のコスト	245 (△ 92)	888 (△ 97)
経常行政コスト 合計	24,227 (501)	45,629 (1,543)
【経常収益】		
1 使用料・手数料	402 (0)	532 (10)
2 分担金・負担金・寄附金	207 (38)	8,578 (193)
3 その他収入	0 (0)	5,864 (61)
経常収益 合計	609 (38)	14,974 (264)
受益者負担率（収益／コスト）	2.5%	32.8%
(差引) 純経常行政コスト	23,618 (463)	30,655 (1,279)

下段の（ ）書きは対前年度増減額

【経常行政コスト】

「経常行政コスト」は、1年間の行政活動のうち、資産の形成に結びつかない行政サービスに係る経費が456億2,900万円かったことを表しています。

前年度の経常行政コストと比較すると、15億4,300万円増加しています。主な増加理由は、社会保障給付費が全体で約13億3,300万円増加したことなどによるものです。

【経常収益】

「経常収益」は保育園の保育料、市営住宅の使用料などのほか、昭和病院の診察料など、行政サービスの直接の対価として得た財源（受益者負担）で、総額149億7,400万円です。

前年度と比較すると、2億6,400万円増加しています。主な増加理由は、社会保障給付費の増加に伴う分担金及び負担金の増加によるものです。

【純経常行政コスト】

「経常行政コスト」から「経常収益」を差し引いた「純経常行政コスト」は306億5,500万円です。この額については、受益者負担で賄うことができず、市税収入などの一般財源が用いられたことを意味します。

前年度の純経常行政コストと比較すると、12億7,900万円増加しています。

③ 純資産変動計算書

純資産変動計算書は、貸借対照表の純資産の金額が、期首時点（＝前年度末）から期末時点（＝今年度末）までの1年間にどの様に変動したかを明らかにするものです。

純資産変動計算書

平成25年4月1日 ～ 平成26年3月31日

(単位：百万円)

	普通会計	連結
期首純資産残高	57,447 (336)	65,132 (1,142)
純経常行政コスト	△ 23,618 (△ 463)	△ 30,655 (△ 1,279)
一般財源	15,036 (454)	15,370 (473)
補助金等受入	9,389 (478)	16,357 (866)
その他	△ 1 (1)	47 (△ 32)
期末純資産残高	58,253 (806)	66,251 (1,170)

下段の（ ）書きは対前年度増減額

【期首純資産残高】

清瀬市（連結）の前年度末の純資産の総額で、651 億 3,200 万円です。

【純経常行政コスト】

行政コスト計算書の「純経常行政コスト」から正負を逆にして転記するもので、マイナス 306 億 5,500 万円です。

【一般財源】

市税や地方交付税などの一般財源収入のことで、153 億 7,000 万円です。前年度と比較すると、4 億 7,300 万円増加しました。主な増加理由は、地方税が約 1 億 600 万円増加したことや特別会計からの繰入金が 3 億 1,000 万円増加したことなどです。

【補助金等受入】

清瀬市（連結）が国や都から交付を受けた補助金のことで、163 億 5,700 万円です。前年度と比較すると、8 億 6,600 万円増加しました。主な増加理由は、保険給付費の増加により、国・都支出金が介護保険特別会計で約 1 億 1,500 万円、後期高齢者医療広域連合で約 2 億 900 万円増加したことや普通会計において、障害者自立支援給付費負担金が 1 億 600 万円増加したことなどです。

上記の理由などにより、純資産総額は 662 億 5,100 万円となりました。前年度と比較すると、11 億 7,000 万円の増加となります。

④ 資金収支計算書

資金収支計算書は、前年度末に持っていた資金が、どのような理由でどれだけ増減したかを明らかにするものです。

資金収支計算書

平成25年4月1日 ～ 平成26年3月31日

(単位：百万円)

1	経 常 的 収 支 の 部		
		普通会計	連結
	収 支 額	3,415	4,225
		(264)	(△ 38)

2	公 共 資 産 整 備 収 支 の 部		
	収 支 額	△ 470	△ 503
		(△ 150)	(△ 147)

3	投 資 ・ 財 務 的 収 支 の 部		
	収 支 額	△ 3,135	△ 3,934
		(△ 92)	(△ 132)

歳 計	現 金 の 増 減		
平成25年度の 歳計現金増減額	△ 190	△ 212	
	(22)	(△ 317)	
平成24年度末 の歳計現金残高	959	2,151	
	(△ 212)	(161)	
平成25年度末 の歳計現金残高	769	1,939	
	(△ 190)	(△ 156)	

下段の（ ）書きは対前年度増減額

【経常的収支の部】

人件費や物件費などの支出と、市税、地方交付税などの収入により、清瀬市における経常的な行政活動に係る資金収支を表します。平成25年度の収支額はプラス42億2,500万円です。前年度と比較すると、社会保障給付費が13億3,300万円の増加したことなどにより、3,800万円減少しました。

【公共資産整備収支の部】

道路、公園や学校・福祉施設などの整備に係る支出と、その財源である補助金、市債などによる収入により、公共資産の整備に係る資金収支を表します。平成25年度の収支額は、マイナス5億300万円です。前年度と比較すると、下水道事業特別会計での雨水幹線の整備や私立保育園への施設整備費の補助などにより、1億4,700万円減少しました。

【投資・財務的収支の部】

出資、貸付金、基金の積立て、借金の返済などによる支出と、その財源となった補助金、貸付金元金の回収額などの収入により、財務活動に係る資金収支を表します。平成25年度の収支額はマイナス39億3,400万円です。前年度と比較すると、公共用財産の取得及び建設基金への積み立てを3億1,900万円行ったことなどにより、1億3,200万円減少しました。

【歳計現金の増減】

上記の理由により、歳計現金の残高は、平成24年度末の21億5,100万円から、平成25年度末の19億3,900万円と1億5,600万円減少しました。

⑤ 財務書類 4 表の関係

財務書類は 4 つの表で構成されていますが、その関係は下の表のようになっています。

- ・ 貸借対照表の純資産の変動を表したものが、純資産変動計算書です。
- ・ 行政コスト計算書は、純資産変動計算書における純経常行政コストの内訳です。
- ・ 資金収支計算書は、貸借対照表に計上されている歳計現金の増減の内訳です。



財務書類の活用方法 ～今後の世代が負担する割合は？～

貸借対照表を活用すると、清瀬市が保有する公共資産について、今後の世代が負担する割合を知ることができます。

$$\frac{\text{地方債等現在高}}{261\text{億}3,300\text{万円}} \div \frac{\text{公共資産合計}}{920\text{億}2,400\text{万円}} \times 100 = 28.4\%$$

(270億4,200万円) (924億2,200万円) (29.3%)

下段の () 書きは前年度数値

100%に近づくほど将来世代の負担が増えることを意味し、15%から 40%程度が標準とされていることから、清瀬市（連結）における比率は、標準範囲内となっています。新規の地方債発行の抑制を行い財政健全化に努めることも重要ですが将来世代の負担を軽減させるためには、計画的に建物や道路などの再整備を行うことも重要です。

『清瀬市のわかりやすい決算書』
～清瀬市のまちづくり報告書～
平成 26 年 1 2 月発行

清瀬市企画部財政課財政係

〒204-8511

東京都清瀬市中里 5-842

TEL 042-497-1810（直通）

TEL 042-492-5111（内線 222）